



# 忘れられない親子の姿 く血のつながりってなんだろうっく

〈福岡県〉

瀬上 希代子 49歳

長くNICU（新生児集中治療室）で看護師長として勤務してきた。その中で、忘れられない「親子の姿」がある。

ある日、1人の赤ちゃんが入院してきた。Aちゃんは低体温で入院した。しかし、もう1つの理由は「育児者がいない」というものだった。

周りの赤ちゃんは両親が面会に来ている。看護師たちは、面会のないAちゃんを抱っこしたり、目を合わせて話し掛けながら授乳するなど、できる限りの愛情を注いでいた。

担当看護師Yさんは、Aちゃんの日記をつけていた。毎日少しずつ大きくなっていく体重、増えていくミルクの量をはじめ、看護師がどれだけAちゃんをかわいと思うかをつづり、写真や手・足型を取って、日記に

貼っていた。「大好きだよ」のメッセージと一緒に。

3週間の入院で、Aちゃんは乳児院へと退院し、その後のAちゃんについての情報が病院に入ってくることはなかった。

それから5年後。Aちゃんの里親さんから「担当していた看護師に話を聞きたい」と連絡があった。Yさんは他部署へ異動していたが、連絡をとり、お会いする機会を持った。

特別養子縁組をしてB家の長女となった、5歳の笑顔のかわいいAちゃんは、お母さんと一緒に会いに来てくれた。お母さんはAちゃんが物心つくころには事実を話していたこと、愛情深く育てていること、そして生まれてすぐに入院した病院で看護師たちに

とてもかわいがってもらっていたことを、Yさんの日記を見せて話をした、と教えてくださった。

「『愛されていた』ということの証となる日記を作ってくださいあってありがたいございます」とお礼を言っていた。

NICUという環境の中で、時には血のつながりって何だろう、と考えることがある。Aちゃんを取り巻いた色々な形の愛情からは、人と人とのつながりの奥深さと、愛情をもって接することの偉大さが感じられた。

若い看護師であったYさんも、今は一児の母である。とても愛情深い育児をしながら、看護師としてがんばっている。